

ようこそ 世界遺産・西本願寺へ

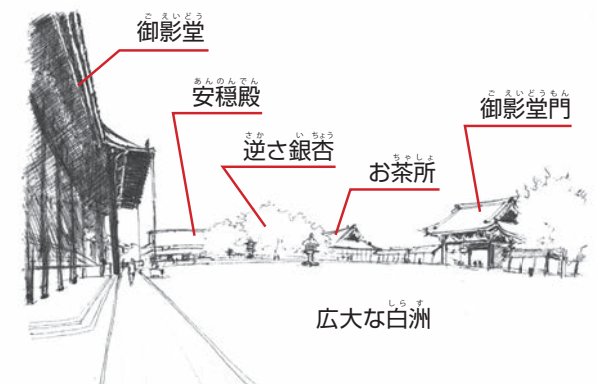
本書は、世界文化遺産としても登録されている浄土真宗本願寺派本山の龍谷山本願寺(西本願寺)の魅力、「絵解き」によって紹介します。

左の絵は、広い境内の南の一角から見た光景です。堀川通から御影堂門をくぐり、境内の石畳を参拝者が御影堂に向かい進む姿も見られます。

Welcome to Hongwanji, a World Heritage Site

This book uses illustrations to show the interesting characteristics of Ryukokuzan Hongwanji, commonly called Nishi ("West") Hongwanji. The temple, registered as a World Cultural Heritage Site, is the headquarters of the Hongwanji denomination of Jodo Shinshu Buddhism (Jodo Shinshu Hongwanji-ha).

The illustration on the left is a view from the south side of the temple's spacious precincts. You can see visitors entering from Horikawa Street through the Goeidō Gate and walking along the stone path toward Goeidō (Founder's Hall).



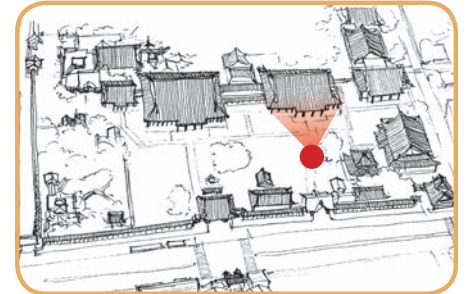
西本願寺境内の配置図



本書では、「絵解き」として掲載している境内の建物や室内などの絵が、どの方向から見て描かれているのかを示したキープラン（案内図=下図Aと下図B）を掲載しています。

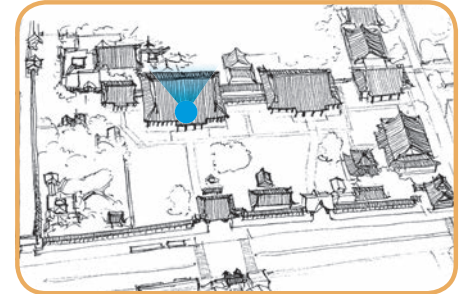
下図Aは野外で描いている場合で、描き手が立っている位置と視野角を赤で示しています。下図Bは屋内の場合で、同じように青で示しています。

図A



どこに立って描かれた絵なのかを示す図① (屋外の場合=赤で表示)

図B



どこに立って描かれた絵なのかを示す図② (屋内の場合=青で表示)

ようこそ世界遺産・西本願寺へ 3
 西本願寺境内の配置図 4
 はじめに 8
 Introduction 10

第1章
御影堂

～壮大な瓦屋根が目に飛び込む～



世界最大級の木造建造物です 12
 御影堂の大屋根の造形美に魅せられます 14
 御影堂と阿弥陀堂は南北に軸線が揃います 16
 切妻、寄棟、入母屋の3つを覚えましょう 18
 瓦屋根にまつわる代表的な部位を説明します 19
 軒支柱がもたらす外観は特徴的です 20
 見上げて、虹梁や海老虹梁を見つけましょう 22
 内部は外陣と内陣で構成されています 23
 見どころ満載の内陣の様子です 24
 大修復の歴史を持ちます 26
 随所に建築装飾の粋を見つけられます 27
 COLUMN 日本の住宅様式に大きな影響を与えた書院 28

第2章
阿弥陀堂(本堂)

～西本願寺の中心的な建物～



本尊・阿弥陀如来を安置するお堂 30
 現在の阿弥陀堂は1760年に再建されました 32
 内陣や外陣の構成の原則は御影堂と同じです 33
 阿弥陀堂側面には白壁が塗られた土蔵造が見られます 34
 寺院建築の細部の名称を知ると、興味も増します 36
 外陣は大勢の門信徒が入ることができます 38
 内陣には阿弥陀如来が安置されています 39
 COLUMN 西本願寺の2つの能舞台について 40

第3章
境内への誘い

～諸堂や門の位置関係を知りましょう～



俯瞰で見る境内と諸堂の配置 42
 正面から見た西本願寺の全景です 44
 御影堂門は重厚な構えの門です 46
 阿弥陀堂門の屋根は檜皮葺なので目立ちます 47
 堀川通からもすぐにそれとわかる太鼓楼です 48
 端正な外観の経蔵です 49
 とてもおしゃれな鐘楼です 50
 広大な白洲に逆さ銀杏が枝を広げています 51
 境内と門前町とをつなぐ重要な門が総門です 52



第4章
書院を巡る

～格式ある絢爛な世界へ～



第5章
飛雲閣

～まさに雲上の楼閣建築～



手水舎は2010年に修復された重要文化財です 53
 唐門はまたの名を勅使門ともいいます 54
 築地塀は重要文化財に指定されています 56
 目隠塀もシンプルながら重要文化財です 57
 COLUMN 象鼻と臺股 58

書院の全景を見てみましょう 60
 書院の諸堂の配置はこのようになっています 61
 対面所から紹介します 62
 対面所の内部を下段から上段方向に見ています 64
 白書院は格式の高い三室です 66
 一の間(紫明の間)は典型的な書院造となっています 68
 一の間(紫明の間)の詳細 70
 北能舞台と南能舞台は対照的です 72
 3つの狭屋の間は、細長いギャラリーのようです 76
 対面所の作品群を、立体的に示してみます 77
 雀の間、雁の間、菊の間の作品群を示します 78
 一の間および上段、二の間、三の間の作品群 79
 狭屋の間などの作品群を示します 80
 浪の間、虎の間、太鼓の間などの作品群 81
 壁板に虎が描かれている虎の間です 82
 虎の間は東向きです 83
 格式のある大玄関です 84
 上品な外観の浪の間玄関です 85
 虎溪の庭は、御影堂の屋根の一部を借景にしています 86
 COLUMN 数寄屋造の黒書院についての補足 88

雲が浮かぶようなたたずまいの飛雲閣です 90
 飛雲閣の三層屋根を詳しく見てみましょう 92
 金閣、銀閣と並ぶ楼閣建築の傑作です 93
 破風について基礎知識を覚えましょう 94
 三層の屋根はこのように重なります 95
 舟に乗って入ることができます 96
 飛雲閣の主旨は招賢殿です 98
 黄鶴台の中は珍しい浴室です 99
 黄鶴台から飛雲閣を臨みます 100
 滄浪池の水面が建物の浮遊感を高めています 102

▶本書はオリジナルの絵で西本願寺の魅力を説明する絵解きの本です

本書は、世界文化遺産(1994年に登録)にもなっている西本願寺の魅力を、絵などのビジュアル素材を豊富に駆使して解説しています。広大な境内には、国宝や重要文化財に指定されている建物が数多くあります。これらの建物や庭などの特徴を紹介するのに、すべてオリジナルな絵を描き起こしました。絵といっても機械的に模写する画法ではなく、力説したい個所がよくわかるような構図にしたり、強調やぼかしの手法を使っています。このような絵による表現ならば、その場所の広がりや、方位、部屋の関係性などをストレートに伝えることができます。反対に、思い切って省略することも可能です。絵解きならではのこうした訴求力をフルに活用し、重要な事柄や用語などが絵の中のどこに対応するのかを、引き出し線などでていねいに解説しています。

▶西本願寺は国宝や重要文化財の宝庫です

親鸞聖人の御真影を安置する御影堂は、平屋根による木造建造物としては我が国で最大規模を誇ります。御影堂の北に、共通した建築様式により建っている阿弥陀堂とともに、国宝に指定されています。

豪華絢爛な桃山時代の貴重な遺構として知られる書院も、見どころ満載です。対面所や白書院、北能舞台はいずれも国宝です。豪華で精巧な彫刻が見事な唐門、楼閣建築として金閣や銀閣と並び称される飛雲閣も、左右非対称な屋根の重なる造形美を見せ、やはり国宝です。このように国宝だけでも見どころが満載といえましょう。

▶境内全体のキープラン(案内図)を描き、フル活用しました

本書全体の構成としては、主要な諸堂を次の順に説明していきます。御影堂、阿弥陀堂、書院および関連施設、飛雲閣です。ただ、それぞれの諸堂の位置や配置関係、方位なども考慮して、読者が方位感覚や臨場感を保ちつつ絵をご覧になれるように、描いた方向などのキープラン(案内図)も極力入れるようにしました。諸堂の配置関係の理解をあわせて深めていただければ幸いです。堀川通をはさんで東側にある総門なども重要文化財に指定されていますから、境内全体の配置の絵(p.4)に入れて描いてあります。

なお西本願寺の場合、主要なお堂である御影堂や阿弥陀堂は東を向いて建立されています。築地塀や御影堂門、阿弥陀堂門の位置もそうですが、全体としては堀川通に正面を向けた配置です。そこで一般的には地図の表記と同じように上を北にあわせて描くとわかりやすいのですが、東の方角をキープランでは下に(ということは西の方角を上)置くように統一しています。ただし、白書院の諸室の構成を解説する部分などでは、壁などを立体的に見せる目的から東を下にはしていますが南寄りの向きで図を描いています。

▶建築関係の専門用語は極力、大きめの文字で併記しています

本書は主に建物や諸堂の配置構成、庭、主要な室内の特質などを中心に解説します。読者の皆さんに伝統的な建築様式をわかりやすく理解していただくために、専門用語については、これだけは知ってほしいというものにしぼっています。とはいえ、現代の私たちの日常では、あまり使うことがない用語が多いです。当然のことですし、用語の意味を知る以前に、読み方に苦勞されるかもしれません。そこで読みやすいように、大きめの文字で()つきの表記にしました。文章中にカッコが目立つところも登場しますが、あくまで読みやすさを優先させてみました。

なお、本願寺の諸堂には、すばらしい障壁画や天井画、板絵、飾金物などが随所に見出せます。その全貌を詳細に解説するには誌面は十分ではありませんから、主要な作品の場所を示す範囲としました。

本書は以上の目的から、写真は1枚も使用せず、オリジナルの絵と図、文章の連携により、境内の建築群や庭園などを中心に解説を試みています。こうした第一級の文化財が本願寺の歴史の歩みとともに脈々と伝えられてきたことに深い感動を覚えます。

山田雅夫

Introduction

Using abundant illustrations and other visual aids, this book explains the interesting features of the World Cultural Heritage Site, Hongwanji, focusing on the temple's halls, the overall layout of the precincts and major interior features. All the illustrations have been drawn especially for this book. Moreover, making full use of their visual appeal, short descriptions have been added to these illustrations with leader lines so that the reader can easily identify which parts of the illustrations correspond to which topics and terms that appear in the text.

Goeido (Founder's Hall) is one of the largest wooden buildings in Japan. Housed here are a wooden image of Shinran Shonin, the founder of the Jodo Shinshu School, and portraits of successor head priests called Shushu. On the north side of Goeido stands Amidado (Hall of Amida Buddha). The two halls share the same style of architecture and have been designated as national treasures. Their substantial tiled roofs and posts that support eaves are overwhelmingly beautiful and characterize the exterior.

The Shoin (Study Hall) has much to offer visually, too, as it has survived since the Momoyama period, when a culture of luxury and splendor flourished in the late 16th century. This book comments on such structures as Taimensho, Shiro Shoin and Kita Noh-Butai (Northern Noh Stage), as well as Karamon Gate, which embodies the perfection of craftsmanship. The asymmetric roof of Hiunkaku, one of Kyoto's three great pavilions along with Kinkaku and Ginkaku, is another example of excellent architectural beauty. The halls and other structures mentioned above are all national treasures, which indicates that the temple has so many things to appreciate.

For ease of understanding, this book uses key plans to show the relative positions and orientations of the facilities. Basically, the key plans are drawn up with the east at the bottom (the west at the top), since major halls like Goeido and Amidado face east. Exceptions are those that illustrate the arrangement of rooms in Shiro Shoin. These key plans slant down to the south, to create an appearance of three-dimensional walls.

Masao Yamada

第1章

ごえいどう 御影堂

～^{かわら}壮大な瓦屋根が目に飛び込む～

Chapter 1 Goeido (Founder's Hall)

The grandeur of the tiled roof catches your eyes



ごえいどう さか いちよう
御影堂の正面を逆さ銀杏の近くから見る



▶ 世界最大級の木造建造物です



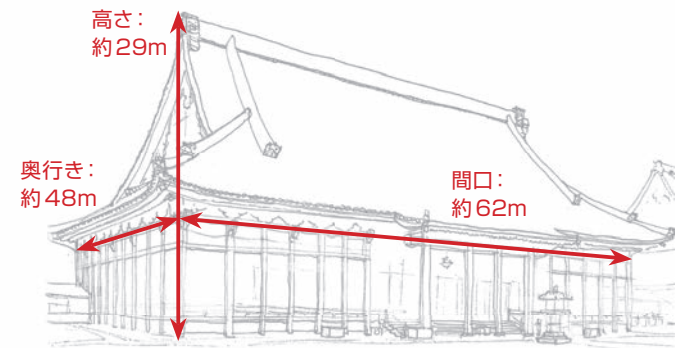
国宝の西本願寺御影堂は境内の中でも最も規模の大きな建物です。この背景としては、増え続ける参拝者を収容するために大規模なお堂が求められたことにあります。

御影堂のサイズは、間口が約62m、奥行きが約48m、高さが約29mで、世界最大級の木造建造物です。

浄土真宗の教えを開かれた親鸞聖人の御真影が安置されています。

御影堂の、空に向かって広がる伸びやかな大屋根が最初に目に飛び込んできます。

注：間口が約62m、奥行きが約48m、の表示を建築的に表すと、南北方向である桁行(けたゆき)が約62m、東西方向の梁間(はりま)が約48m、となります。



梵天

◀ 御影堂、正面からの外観（南東から北西方向を見えています）



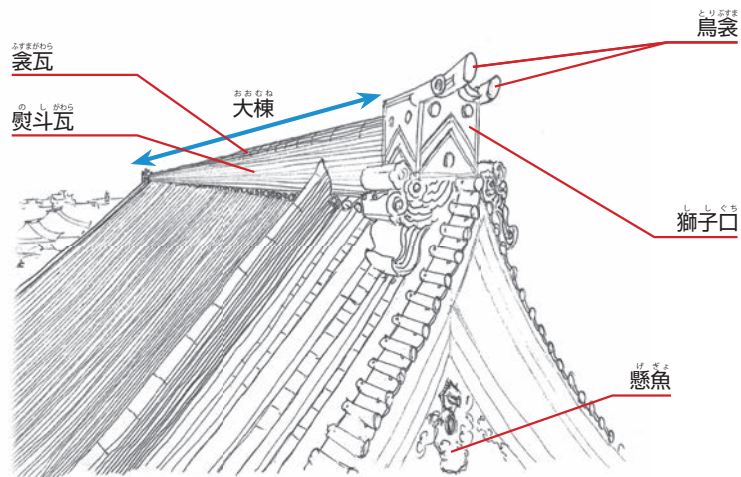
▶ 御影堂の大屋根の造形美に魅せられます

我が国の伝統的な木造建築は、何よりも壮大でありながら、細部の意匠にまで神経が行き届いた^{かわら}瓦屋根の造形美が特徴です。

屋根を下から見上げると、屋根の頂部にあたる部位は遠すぎてわかりにくいかもしれませんが、もし間近でご覧になると、その瓦のゆるやかな曲線美や獅子口（ししぐち）の造形に魅せられるに違いありません。右の絵は、その大棟（おおむね）部分を北から南方向に見た絵です。

従来から採用されてきた瓦屋根の葺き方は、土を使い瓦を固定する方法でした。この方法は屋根の重量が増すため耐久性に問題を残していました。そこで御影堂の平成大修復では、空葺き（からぶき）という、土を使わない工法により大屋根が葺かれています。ただ、技術保存などの観点から、南側の屋根の一部には土葺きの工法が使われています。

瓦総数は約11万5千枚です。なお、古い瓦で、再利用できるものはなるべく活用されていますから、外観では表面の違いで平成瓦と古い瓦とを見分けることができますよ。



▶ 御影堂の大棟（北から南を見る）

